

山形県立農業大学校は10日、サクランボ「せん定名人」によるせん定講習会を新庄市の同校圃場（ほじょう）で開いた。今年度に果樹経営学科を新設したことで初めて開き、同校の学生や県内の農業高校職員ら約40人が参加した。講習では、寒河江市でサクランボ1・7畝を経営し、J・Aさがえ西村山囃託指導士会会長を務める



「名人」から せん定習う

山形県立農大校

せん定技術
を学ぶ学生
（10日、山形
県新庄市
で）

軽部賢一さんが、サクランボのせん定方法を指導した。軽部さんは「玉ぞろいと着色、おいしさの3要素がそろった高品質の果実生産には、せん定の役割が7割を占める。若い担い手に少しでも自分の技術を伝えたい」と話した。

学生らは軽部さんの指導で、樹勢や日当たり、花芽などに気配りして、のこぎりやせん定はさみをを使い枝を切り落としていた。

午後は、東根市でリンゴやサクランボなどを2・6畝経営する高橋十造さんからリンゴのせん定技術を学んだ。

（山形）

品ぞろえ確保し 売り上げ増を

J・Aいわて
花巻の直売所

【いわて花巻】J・Aいわて花巻の北上産地直売所、フレッシュパークあ

ぜみちの産直部会生産者の集い・研修会がこのほど、花巻市の美翠館で開かれた。品ぞろえ確保と組織力強化を運営の鍵ととらえ、売り上げ向上と魅力ある産直づくりを目標することを確認した。

集いには約50人が参加。小原逸郎部会長が

「おいしさと新鮮さ、まごころを一緒に届けること」が産直のイメージアップにつながる。消費者に喜ばれる品ぞろえで対応していきたい」とあいさつした。

研修では、中央農業改良普及センターの澁谷まどか普及員が「産直の魅力増進計画」をテーマに講話。2008年度（1月末現在）の販売実績を来場者数と客単価の平均値から分析した結果を基に指摘した。

同部会の販売実績は、1月末現在で売上総額、